

令和元年度 新特産品チャレンジ栽培実証事業 実証品目等

NO.	事業実施主体	品目等	実証地域	実証内容
1	中北農務事務所	冬季葉菜類	北杜市	峡北地域において、有機農業による新規就農者が増加しているが、露地栽培が中心であり冬から春の出荷品目が少ない。新規保温被覆資材を用いた多重被覆により、露地葉菜類の低コストで省力的な冬春期(1~5月)出荷の生産方法を検討する。
2	富士・東部農務事務所	パプリカ	富士吉田市	比較的冷涼な気候を好み、高収益が見込まれるパプリカにおいて大型トンネルを利用することにより、作期拡大、品質向上、風雨被害軽減が期待されるため、地域適応性と作型を検討する。
3	峡東農務事務所	ビーツ	山梨市	直売所出荷に向け、地域に導入されていない新品目「ビーツ」の栽培に取り組む。ビーツは鉄分、葉酸の含有量が野菜の中でも多く、また品種により果肉の色が異なることから、直売所において既存品種との差別化、有利販売が期待されるため、地域に適した品種の検討を行う。
4	中北農務事務所	冬季レタス	甲府市	安定的な需要が見込めるフリルレタスを中心に、同一ベッドを使った冬季連続栽培技術を確立する。時期をずらして栽培することで連続的な収穫が得られ、冬季の安定的な収入源として、地域農業者の経営安定が実現しうる。将来的には、生産量を増やし市場出荷を含めて検討する。
5	中北農務事務所	ホップ	南アルプス市	モモ、スモモなど地域の果実を用いたフルーツビールなど、産地の強みと新たな品目による加工品の開発を目指す。果樹栽培が困難な北面傾斜など条件不利園地において、冷涼な気候を好むホップ(品種「甲斐黄金」)の試験栽培を実施し、その品種特性を把握して、地域における適応性を検討する。